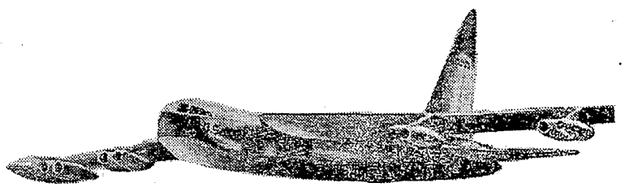
平和特集号

殺し戦争に反対し民主主義を守ろう。



高まる世界の〝平和運動〟
原水爆へ人間の怒り
身近かに迫つた核戦争の恐怖

いまほど平和の声が国内いや世界的に高まつてきているのはめずらしいことだろう。国内では第四回世界大会を前に、平和へのもり上がりが急テンポにすすみ、世界的には米英のレバノン、ヨルダン派兵に、その非をなじり、平和の念願が急速に燃えあがつてきている。平和運動はかけ声ばかりでは駄目だ。もう一度じつくり平和とはどういうものか真剣に考え、実行に移す段階ではなかろうか。

国内運動すすむ

市井の各各運動から出発した原水爆禁止運動は、ことしで第四回をむかえ、さいきんの緊迫化した国際情勢のうちに、いまあたらしい段階に入ろうとしている。原水爆から人類を守るために日本と世界各地の、核非武装化を急がなければならないときだけに、ことしの第四回原水爆禁止世界大会は、歴史的にも大きな意義をもつものである。

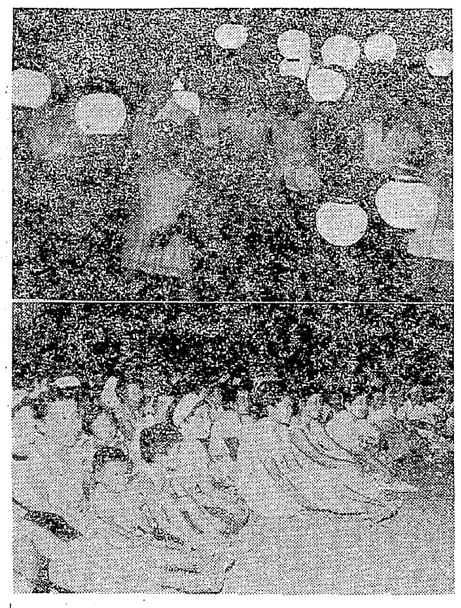
この大会をもりあげるために、いま日本では、いろいろな平和行事集会がおこなわれている。広島―東京間一千キロの平和行進、各県庁所在地での核武装禁止と民主主義擁護の県民大会、平和キャンプなど、このように平和の行事がさかんになつたのははじめてであろう。これは、世界大会の準備が、政府に核非武装と民主主義擁護をつてすすんでいるのである。

アメリカによる日本本土および沖縄への核兵器持込み、日本政府による日本の核武装をめぐよと政府に要求する各地方自治体の決議を求める運動は、すでに米空軍、日本航空自衛隊の拠点板付飛行場の所在地、福岡県、市町議会など十八議会におよんでいる。

そしてこれらの運動は、六月二十日から七月三十一日までの「核武装阻止、民主主義擁護国民運動月間」、その一環としての七月二十日の「平和行進デー」、とくに広島から東京までを一日も休まずに徒歩で歩きつづける「一千キロ平和行進」などの行動に発展して現在各地でおこなわれている。

この一千キロ平和行進に呼応して各地で多彩な行動がとられはじめた。長崎、青森では第四回大会のおこなわれる東京へ向けて、自転車行進をおこない、沿道各地の人々に訴えながらビタルを東京へと踏んだ。

原爆搭載機が入つているといわれる基国では、「原爆搭載機反対国民大会」が七月一日に、新島ではミサイル基地反対大会が七月二日に、六月二十八日には弘前市で核武装阻止の平和行進がおこなわれた。福岡県では平和と友情の集い「平和キャンプ」が志賀島で七月二十六・七日におこなわれた。こうした運動のなかで、第四回大会の意義が理解されていつたのである。このように大会を頂点として国内の各地で、さまざまな平和行事がおこなわれていることは、平和運動の発展と盛揚にむすびつけられており、このことは、昨年にくらべて大きな発展であり、注目に値するものであろう。また、それだけ平和への希求が高まり、平和の存在に危機を感じている情勢におかれているのではなかろうか



平和を私たちの手でと、六日にひらいた提灯行列、下は緑ガ丘の平和大会。

市民平和大会
大牟田、緑ガ丘で開く

広島へ原爆が投下され日本人としては生涯忘れることのできない八月六日が、めぐりめぐつて十三年をむかえた去る八日、大牟田では午後六時半から約千五百名が雑林公園にあつまつて〝市民平和大会〟がひらかれた。〝第四回世界大会を成功させよう〟〝八月六日の感動を忘れるな〟など四項目のスローガンのもとに、世界大会出席代表者の紹介をはじめ、意見発表にうつつたが、平和がいかに重大であるかが切切と訴えられた。

一月六日が、めぐりめぐつて十三年をむかえた去る八日、大牟田では午後六時半から約千五百名が雑林公園にあつまつて〝市民平和大会〟がひらかれた。〝第四回世界大会を成功させよう〟〝八月六日の感動を忘れるな〟など四項目のスローガンのもとに、世界大会出席代表者の紹介をはじめ、意見発表にうつつたが、平和がいかに重大であるかが切切と訴えられた。

大会後は手に手に「平和」と書かれた提灯をかかげて、目貫通りを提灯行列して、この意義深い八月六日を盛大な市民大会に盛りつぶした。

一方、荒尾では緑ガ丘連合地域分会主催で、楓町の広場に「原水爆反対緑ガ丘平和大会」をもよおした。参加者は約八百名、真赤に焼けた夕焼雲のもとで、坂田荒尾市長も出席して盛大な大会をひらいた。子供も白髪の老人までも参加「ここ緑ガ丘の一角から平和運動をおこし、みなさんとともに手をにぎりあつて平和のためにすすみましよう」と叫び、意見発表が各氏からなされ、平和運動を推進することが誓いあわれた。

労働者が先頭に
俺は私はこう考える

目をそらさないで

一閃に
一つの向日葵が萎み
二五〇・〇〇〇の人間が
物体になつた
瓦礫
塵煙
ものの腐るにおい
倒れたときの姿勢で
裸の死体が訴えていた
〝目をそらさないで
私を見てください〟

原爆の洗礼をうけた被爆者たちは、いまも雄々しく平和をかちとるために立上つている。この人たちの存在は一日でも忘れることはできない。上は長崎大会に出席した被爆者の人たち。下は平和の折鶴が組合へ続々寄せられ、大会出席者はこれをたずさえて出席した。

この発言に注意！

ダレス長官は講和条約の結ばれた翌年の昭和二十七年五月七日米議会で「安全保障条約は緊急事業ではない。もちろん日本のための安全保障ではない。それは、アメリカの安全保障計画の一部である」と言明。政府のいう共同防衛の正体が何であるかをズバリいいきつた。

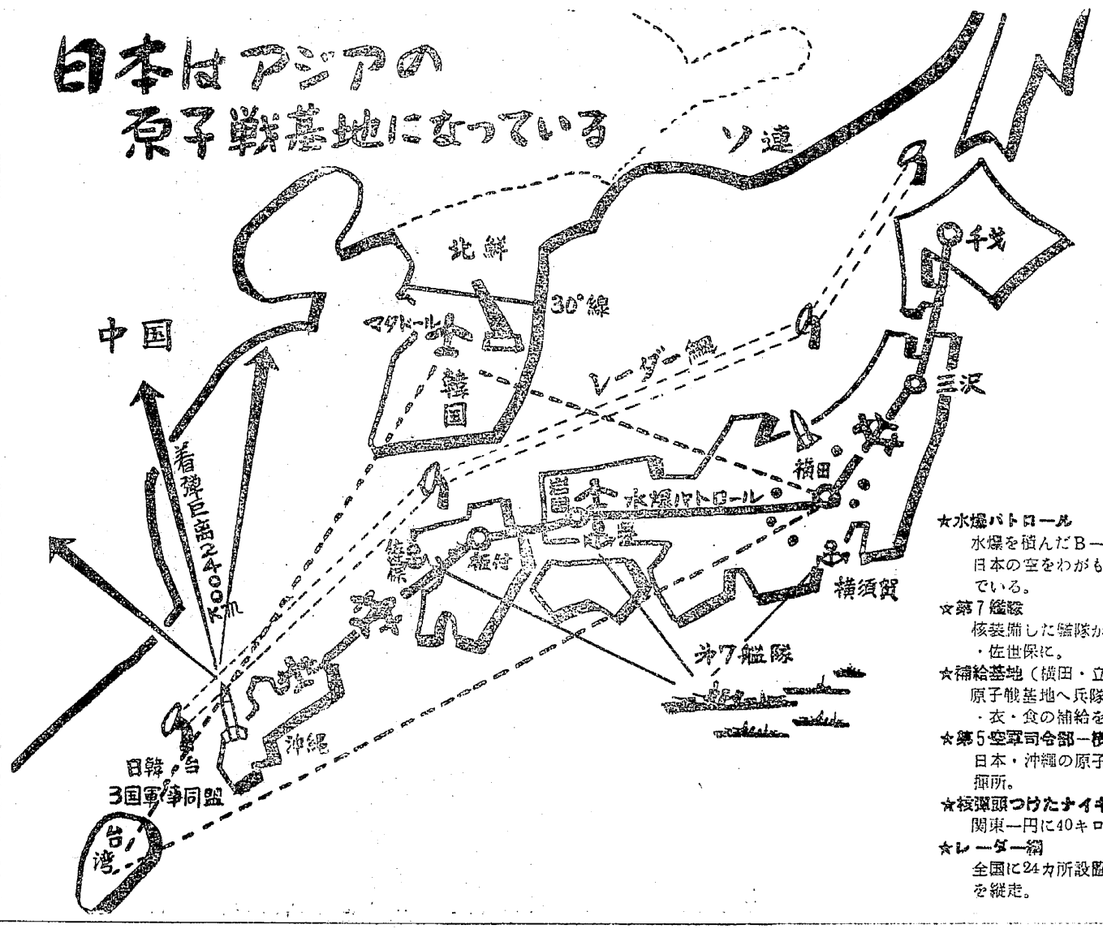
スタンプ米太平洋司令官は日本自衛隊が希望するなら「サイキ」「オネスト・ジョン」をいつでも供与する用意があると言明したあと「日米安保委員会は安保条約の改訂を討議する場所ではなく、在日米軍の配備、行動、日本自衛隊の強化などを相互に協議する機関である」といつている。

マケルロイ国防長官は、下院軍事予算小委員会で「沖縄にIRBMを配置」することを言明し、同外交委員会の秘密証言において「もし、日本に積極的意志さえあれば実質的な軍事力を維持することができる」と答弁した。また、ワシントン・INS電は「極めて信頼できる筋が言明したところによると、日米両国はすでに日本領土内にミサイル基地を将来設定する可能性について非公式の話し合いを行つているといわれる。この基地はどのような型のミサイル基地か明らかにされていないが、米側としてはこれまで欧州にIRBMを送る意向だと言明しているので、日本の場合もおそらく同じIRBMの基地かも知れない」と伝えている。ここでいう日本領土内とは沖縄には話し合いぬきで設置できるから、これは日本本土を指すものといわれる。

日本にはすでに原爆搭載機B・57、F100やオネスト・ジョンが持ちこまれているが、パーク海軍作戦部長は「第七艦隊は空母は原水爆攻撃の可能なA3D、A4D艦上機を搭載しているが、空母以外の主要艦も核弾頭をつけられるレギュラス（対地）タロス（対空）の誘導弾を装備している」と言明した。

岸首相はこれについて三月十一日の衆院予算委員会で「在日米軍が核兵器を装備することを拒否する法的権限なし」「沖縄の米軍機が水爆を装備して日本上空をパトロールし、給油したとしても日本側にこれを阻止するなんらの条約上の根拠なし」と答弁している。

藤山外相も三月二十七日の衆院内閣委において「米国は条約上日本へ核兵器をもつてくる権利をもつている」と答弁した。



★水爆パトロール
水爆を積んだB―52やB―47が日本の空をわがもの顔して飛んでいる。
★第7艦隊
核装備した艦隊が、横須賀・呉・佐世保に。
★補給基地（横田・立川その他）
原子戦基地へ兵隊・武器・燃料・衣・食の補給を。
★第5空軍司令部―横田
日本・沖縄の原子戦体制の総指揮所。
★核弾頭つけたナイキ部隊
関東一円に40キロ間隔で配置。
★レーダー網
全国に24カ所設置して日本全土を縦走。

読書
平和運動の手引書

「核武装なき日本を」問答形式のわかり易いパンフレット。〝なぜ平和運動が必要なのか〟の疑問から、日本にどんな危険が迫つているのか、そのなかでのソ連の核実験停止の意義などにふれつつ、世界の核兵器の現状、原水爆禁止運動の歴史、どのむごたらしさ、何の罪があつてこんなひどい目にあわなければならないのか。

（広島にて）

目をそむけたくなるほ